［所　　感］

長崎市議会議員　山口　　博

福州市との友好都市30周年記念とし、公式訪問団の一員として参加。

私は中国を訪れるのは今回で３回目である。

前市長時代に長崎市の観光誘致が目的で、長崎さるくの一環行事として参加した経験があり、広大な中国の移り変わりに、目を見張るものを感じたが今回も同様であった。

雲の上に聳え立つ約 600mの高層ビルを目の当たりにすると、めざましい勢いで躍進を遂げていることを実感する。

しかし、その一方、国道筋にはゴーストタウンの廃墟が続き、思想主義の違いが強く印象に残った。

広大で悠久なお国柄がもたらすものか、決まった時間に飛行せず、飛行場で１時間も２時間も待機。

時間の感覚の違いが「とてもじゃない」という思いであった。

食事やホテルは一流。

せっかくの訪問に日程・時間にゆとりがないのが残念であった。

目的の研修については、私は水産交流コースに参加。

中国との水産交流がどのようなものであるのか。昆布・アワビ養殖には大いに興味と期待を持っていた。

その施設のすばらしさには、さすが中国だと強く印象付けられた。

また、日本向けの商品展示にも関心を抱き、中国が力をつけている中で、押されないように今後、技術の進歩と共に、日本生産が質、量ともに十分なものでなければならないと痛感した。

このことは、長崎単独自治体でも力をつける必要性を感じた。

特に、アワビ養殖については、長崎市が種苗を中国へ送っており、それが交配されて根がつき、そのことに場所と人を導入し大きく伸びている。

当局は、水産交流に８年前から力を注ぎ、技術者との意見交換などで、友好の基礎となるものを築いてきたのだと確信している。

溝口水産農林部長初め、参画された方々には心から敬意を表するものである。

友好都市を推進し、観光を含めた事業展開には、技術こそが最も根底を示すものであり、水産・水道事業など技術提供を必要とし益々の交流が望ましい。

最後に訪れた上海万博。

「梅屋庄吉展」鑑賞。すばらしい男気を持った人物で、中国との桟となり、その一面を見、感銘した。

現代の人々に、特に若者にもっと関心を持ってもらいたい。

行政としても龍馬同様、もっと取り上げるべきではないかと思うものである。

以上、中国訪問の所感であります。